



発行所
公益社団法人 国民文化研究会
(九州←→東京←→全国)
東京都渋谷区東1-13-1-402
振替 00170-1-60507
電話 03-5468-6230
FAX 03-5468-1470
https://www.kokubunken.or.jp
E-mail: info@kokubunken.or.jp
月刊「国民同胞」編集部
毎月一回10日発行
購読料 年間2000円

歴代天皇の御製と現代日本

―「二千数百年の歴史」を感じ取ろう―

理事長 小柳志乃夫

昨年十月に刊行した当会編著の『歴代天皇の御製集』（致知出版社）の編集に携はって、つくづく思っ

たのは、二千数百年の日本の長い歴史を時々の天皇の御心とともに回顧できるといふ、わが国の有難さである。一系の皇統と国語の伝統の中にある国民の幸である。

一方、長い日本の歴史は平坦ではなく、天変地異や政争、時には外寇など苦難の多い歩みであったといふことも改めて思はされた。そして、その苦難の中で時々の天皇による国安かれ民安かれの祈りが、人知れず続けられてゐたことも御製を通して窺ひ知るのである。

特に、承久の変と元寇といふ内外の重大事件があり、持明院統と大覚寺統の両統迭立から南北朝時代となり、戦国時代へと至る中世の天皇のご苦悩は計り知れないものがあつた。

いにしへに天地人もかはらねばみだれは果てじあしはらの国

右は戦国時代初期の後土御門天皇の御製だが、この御製にこめられた悲痛の御心は、天皇の御目に当時のわが国が、乱れ果てる、崩壊の危機を晒してゐたことを示す。

歴代天皇は国民の労苦を御心に担はせられながら歩んでこられた。ことに西洋と対峙した幕末以降、御心を悩まされる御製は孝明天皇を始めとして少なくない。中でも最も苛酷な時期に皇位にあられたのが昭和天皇であつた。平和への強い願ひを持たれながらも、

経済封鎖・石油禁輸を前に御心ならずも開戦に至られた御苦悩、戦時中の御苦悩、さらに終戦和平に向けての御苦悩と、想像を絶する日々を過ぎられた。何よりも二千数百年の長い歴史で唯一外国の占領下に置かれた天皇であられた。

戦後、マッカーサーに自分の身

はどうなつてもいいから国民を守つてほしいと申し出られた、その真心がマッカーサーを感動せしめたのは有名な話であり、ここから戦後復興が始まったと言つていい。

一方の占領政策は、一度と日本が「米国の脅威」にならないやうに日本国憲法の強要に始まる皇室制度や民法などの法制度改革、教育改革、財閥解体と幅広い分野に及んだ。それらは二千数百年の日本の伝統を切断し、日本人の力の源を断たうとするものであつた。

その厳しい占領下にあつて、昭和天皇は全国を御巡幸され、国民を勇気づけられた。わざはひをわすれてわれを出むかふる民の心をうれしとぞ思ふ

天皇と国民との直の触れあひの感激の中に、戦後復興の意欲が高まつたのだつた。昭和二十七年に独立を回復したときの御製、**国の春と今こそはなれ霜こほる冬にたへこし民の力に**

には、そのお喜びが満ち溢れてゐる。長い冬（占領）は終り、今や春（独立）が到来したのである。しかし、占領政策の狙ひは、もつと後になつて、戦争や占領期の苦渋を直接に体験せず、戦後教育の中だけに育った世代が主力になるにつれて顕現化したやうに思ふ。日本は、戦後、日本国憲法の

もとで、平和主義、人権の重視、国民主権の「新しい国に生まれ変わった」のだといふ認識は、公的な言論空間に定着した。安倍元首相が戦つた「戦後レジーム」がこれである。ここには、日本が存在しないのである。その言論空間で、今や、欧米発のLGBTなどの流行思想や夫婦別姓論、安易な外国人労働者の移入策など自らの文化を破壊するやうな議論がなされてゐる。

日本はそんな底の浅い存在ではない。二千数百年の民族的体験を通して培つた豊かな文化を有してゐて、その文化は国民生活全般に溶け込んでゐる。特に、国語の面では、記紀万葉以来過去の民族体験を直接に記した言葉は、歴代御製を含めて多く残されてゐて、そこには、血の通つた祖先の言葉がある。だが、それに気づかず新奇なものに飛びついてしまふ。

吉田松陰が従弟に与へた「士規七則」の一文に、「凡そ皇国に生れては、よろしく皇国の宇内（天下）に尊き所以を知るべし」とある。誇りある日本の個性を知るべきだといふのだが、それは歴代御製を通して学ぶことができる。

二千数百年の歴史を自分の心で感じ取つて、占領政策の眠りから目を覚ますべき時である。